

“災害時等の情報共有化を図るための 災害支援システムの構築”

盛岡市上下水道局 水道維持課

はじめに

情報を共有する新しいシステム

- これまで、事故や災害時には、大判で印刷した図面やホワイトボードを利用して情報共有や検討を行ってきましたが、この方法は小規模なものに対してのみ有効でした。
- 規模が大きくなると、取り扱う情報が膨大となるため、より効率的な情報の管理と共有化の手法が求められていました。
- これらの状況から、大規模災害時に効果的な情報共有できる新しいシステムを構築しました。



背景と課題

個人情報保護の動き

- 近年の国内の個人情報保護の動きを背景に、盛岡市においては、個人情報を取り扱うマッピングシステムはインターネット環境下での使用を制限しています。
- 現場からの情報伝達は、通話に加え、インターネットを利用した画像データの送信が有効であるが、情報共有の仕組みが不十分でした。
- マッピングシステムがインターネット環境で運用できなくなったことを背景に、異なるネットワークで管理している各種情報の一元管理が課題となっていました。



対応策

一元管理された災害支援システム

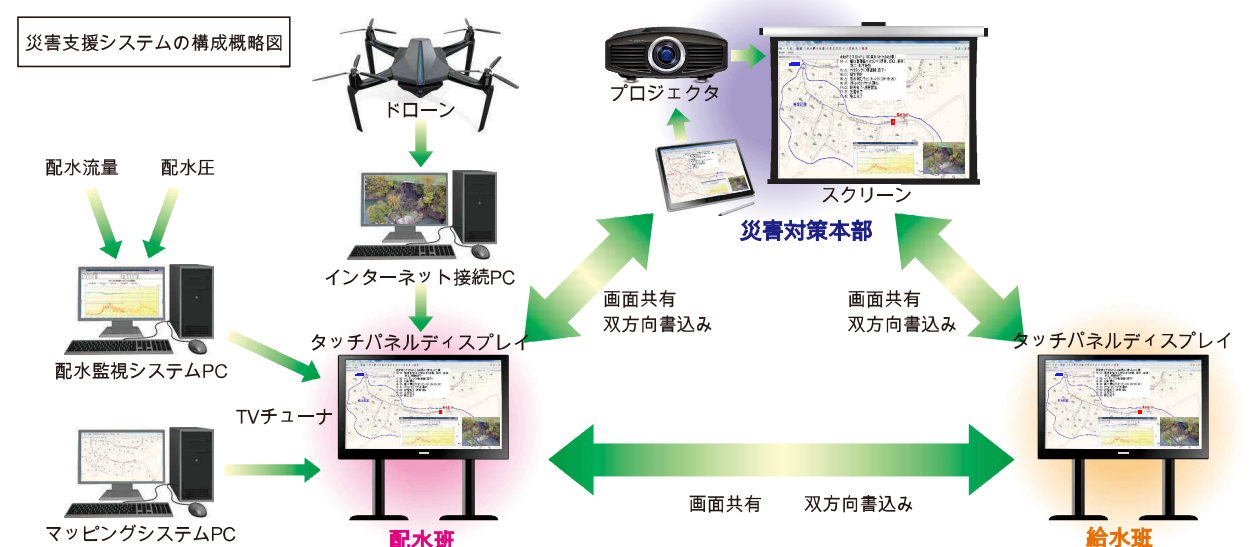
- 災害時に求められるシステムは、誰でも操作できる使いやすいものであることが重要です。システムが複雑になると、一般的に操作に習熟した職員が必要になります。
- 新しいシステムでは、これまで行ってきた方法を変わりなく対応できるような操作性を考え、タッチパネルディスプレイによる操作とディスプレイへの手書き入力を可能とするシステムとしました。また、電子ホワイトボード機能も備えています。



結果

システムを利用した情報共有

- 画面共有ソフトを利用して、複数での同時書き込みと画面の共有を可能にしました。
- マッピングシステムの情報共有をメインに、配水流量や配水圧を監視する配水監視システム、各種事務や上水道以外の他部署の情報を取り扱うインターネット接続された端末などの異なるネットワーク情報やテレビからの情報を簡単に共有できるようにしました。
- 画像データ情報の共有も可能で、各種システム環境に依存しない仕組みとしました。
- 災害対策本部が設置されるような大規模な事故や災害時には、プロジェクタを使用することにより、情報を見ながら議論できるものとし、現場からの情報も共有することができます。



まとめと将来の展望

まとめ

- システム導入により、これまで紙やホワイトボードに書き込んでいた情報をデジタルで管理できるようになり、事故や災害時の情報管理が容易になりました。
- 対策本部と各班、班同士の情報共有が改善し強化されました。
- 現場からの画像や映像データの共有より現状把握までの時間が短縮され、より詳細で正確な検討が可能となりました。

将来の展望

- 災害時の対応方法が進歩している中で、ドローンによる空撮を導入するなど、システムの改善の検討を行っています。

ドローンからの写真

